

国立特別支援教育総合研究所主催 「発達障害教育セミナー」第1分科会

的確な実態把握に基づく 自立活動の指導

明星大学教育学部
廣瀬由美子

はじめに・・・

狛江市立狛江第三小学校
森村先生の実践から学ぶ

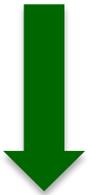
◎課題の的確な把握

いいね！！
キャラクター

- 森村先生自身が共に
児童自身の課題に向き合う
- 本人の気持ちを受け止め
指導の中核とすること

◎自立活動の指導の組立て 「自分研究」:指導方法の工夫

- 対象児童らの自尊心を尊重
- 内容の選択(6区分27項目から)
- 指導の汎用性(他の対象児童へ、
通常学級での効果へ)



通常の学級で想定される問題な言動 (適切な対応を要する行動)

他者に向ける

- ・ 怒り(暴言暴力)
- ・ 固執/パニック
- ・ いじめ

自身に向ける

- ・ 情緒不安
- ・ 不登校
- ・ 自殺願望



課題となる言動

家庭環境

学校環境

環境と密接な関係

つぎに・・・

**学習指導要領改訂に伴う
「自立活動」の指導の確認**

学校教育法施行規則第140条の一部改正

平成28年12月9日改正→平成30年4月01日より施行

(旧)

障害に応じた特別の指導は、障害の状態を改善又は克服を目的とする指導とする。
ただし、特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を補充するための特別の指導を含むものとする。

(新)

障害に応じた特別の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導とし、特に必要があるときは、障害の状態に応じて各教科の内容を取扱いながら行うことができるものとする。

自立活動

教科の補充指導

自立活動

(教科の内容の
取扱いも含む)

小/中学校学習指導要領(29年)総則編

2 特別な配慮を必要とする児童/生徒への指導

③ 通級による指導における特別の教育課程

ウ 障害のある児童/生徒に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。

その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

自立活動のねらい

学校教育において育成を進める『資質・能力』

- ① 生きて働く「知識・技能」の習得
- ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」



各教科等において系統的に示されている目標や内容を指導することで、定型発達児はバランス良く育成される

BUT

障害のある幼児児童生徒は、その障害によって、「資質・能力」の育成につまずきやすい

自立活動の指導

→育まれる「資質・能力」を支える役割

自立活動の内容

人間として基本的な行動を遂行するために必要な要素

障害による学習上又は生活上の困難を改善克服するために必要な要素

6区分27項目

健康の
保持

心理的
な
安定

人間
関係の
形成

環境の
把握

身体の
動き

コミュニ
ケーション

自立活動の指導は

→育まれる「資質・能力」を支える役割

そして・・・

実態把握と自立活動

理解し指導に活かす実態把握

特性や状態、環境の状況を理解するための情報収集

指導や支援に活かすための情報収集

- ・心理検査等による情報
 - ➡強い力や弱い力
 - ➡得意な思考方法
- ・行動観察等による情報
 - ➡本人や他人の生命に関係する言動
 - ➡奇異に思われる言動
- ・家庭、学級の環境情報
 - ➡二次障害の視点

- ・本人によるニーズ情報
 - ➡興味・関心
 - ➡一番困っていること
- ・問題行動の機能情報
 - ➡言動を分析する視点（A・B・C分析など）
- ・通常学級での学習情報

優先的な指導内容の決定

・専門家から対象児童生徒の
潜在的な能力、
能力を発揮するための
方略などを聞いて
指導方法に活かす
ことが重要

通級による指導での 特別の指導(自立活動)

「障害による学習上又は生活上の困難を改善し、
又は克服することを目的とする指導」

障害特性による困難さを把握する

- 学習意欲に関する課題
- 学習態勢に関する課題
- 学習内容に関する課題
- 学習方法に関する課題

- 生活スキルの課題
(実行機能等々の課題)
- 社会性スキルの課題
(コミュニケーション、状況
判断)

本人のニーズ情報

観察からの情報

なりたい自分・苦戦している自分

「自分調査シート」「希望調査」
「自分研究」 等々

教師の観察と記録

- ・観察や記録の目的 ← 何を知りたいのか？
← 指導に活かせる？
- ・観察の目的で記録方法も変わる
- ・エピソード記録 ← 推測や感情は不要
- ・ピンポイント記録 ← 回数、時間、出現率 等

適切な支援や指導を行うために① エピソード記録

言動を事実のみ記録していく方法

●月●日：4時間目の授業になると お腹が空らしく、
落ち着きがなくなる。



●月●日：4時間目の算数の時間で、計算問題のプリントの
途中で、教室内をうろうろと歩き出した。
問題プリントを見ると、1問目から出来ていないので
席に戻して問題の解き方を教えた。
その後は、自力で問題を解くことができた。

適切な支援や指導を行うために②

ピンポイント記録

言動などの回数や時間など記録していく方法

回数で記録

(授業中の立ち歩き)

- ・6/4:7回(①2回、④3回)
- ・6/5:2回(①1回、②1回)
- ・6/6:8回(①3回、……)

- * 1日の時間変動?
- * 1週間、1か月の変動?
- * どんな教科?

時間で記録

(朝自習を開始するまでの時間を計測)

- ・5/8:45秒(大方の子供が実施した後)
- ・5/9:10秒(すぐに実施)
- ・5/10:3分……

- * 記録から何が分かる?

おわりに・・・

第1分科会のまとめ

通級対象者への指導効果を上げる

通級による指導

- 通常学級の
適応力の育成
- 自己有能感の
意識化

● 特性に応じた
特別な指導

● 通常の学級に
般化可能な指導

通級の利用児童生徒

通常の学級に在籍

- 生活基盤
- 学習基盤

● 安定した学級経営

- ・ 安心安全感
- ・ 自己肯定感

● 質の高い授業づくり

- ・ 学びの意欲の向上
- ・ 個への配慮

通級による指導での指導内容のプロセス

自立活動

生活上の困難さ
A

学習上の困難さ
B

$$A > B$$

$$A = B$$

$$A < B$$